⑸ 古座小学校のこれからの防災教育の進め方

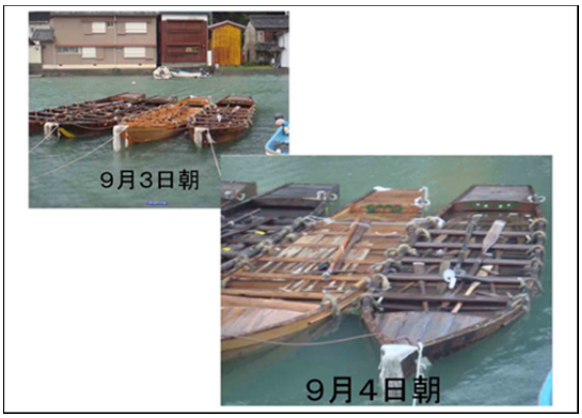
林　宣行　（串本町立古座小学校）

林　宣行　（串本町立古座小学校）

和歌山県の串本町古座小学校の林です。私が住んでいるのは、勤務地から 30 分位車で行った那智勝浦町というところです。人が集まるときに、話をするときは必ずこの話から入るので、もしかしたら聞かれた先生もいるかもしれませんけど、那智勝浦町には、なんと子どもたちに誇る 4 つの日本一のものがあります。

一つは、『那智の滝』。高さ 133m の落差は日本一の滝です。二つ目は、『はえ縄漁によるマグロ』。生マグロの水揚げは日本一の水揚げ量だそうです。美味しいマグロが勝浦に来れば食べられます。三つ目は、長さ 13.5m の『ぶつぶつ川』。登録河川の中では日本で一番短い川だそうです。見に行っても「なんじゃこれ」って感じです。TOKIO が取材に来てました。四つ目は、『富士山が見える最遠の地』。年に何回かしか見えないそうです。私も実際に見たことないんですけども、那智勝浦町の妙法山から、富士山が遠くにかすんでいるんですけども見えるということです。これらは防災と全く関係ないようですけど、実はとっても大事なことなんですね。子どもたちに自分の住んでいる地域・郷土を好きにさせる、誇りに思わせる。

勝浦は、9 月に秋の祭りがあります。このお祭りは、船が何艘か出て、そしておみこしが飛び込んで、そのおみこしに縄をかけて引っ張るという、ちょっと変わった面白い祭りなんです。この赤いはっぴを着ているのが私です。私は子どもの頃から田舎の地域の祭りずっと大好きで、ここ 10 年は中学生の船に乗って、指導者をしています。今年は 9 月 18 日の日曜日です。それで、ちょうど明日から、船を下して練習が始まるんです。私は東京にいて船を下せないんでちょっとラッキーなんですけど、先輩後輩達が明日船を準備して、それから祭りの準備が始まります。



2011 年 9 月 2 日に先輩から電話が掛かってきました。この地方に大きな台風が来ているので、船を湾の中に入れるから全員集合ということで、9 月 2 日の金曜日だったと思うんですけど、会員が集まって、船を小さな湾の中に入れたんです。次の日、3 日の朝、結構雨が降ったんですけどもこの状態です。そして 9 月 4 日の朝。船がもうほぼ沈んでいるのがわかると思います。相当雨が降ったんです。前の日と全然違うというような状態でした。

その後、海も見に行きました。若いころサーフィンやってまして、不謹慎な話なんですけども、台風で来たら凄く嬉しかったんですよ。「ああ、いい波た

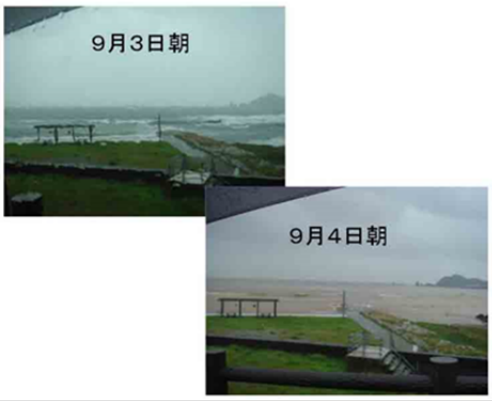
つな」と。こういう時には必ず海を見に行くんです。「海を見に行ったら駄目だ」と言われるんですけど、必ず見に行くんですね。9月3日と9月4日に那智湾の同じ場所を写した写真です。海の色が違うのがわかると思います。4 日のほうは茶色く濁っています。そして、そのまま車を走らせていくと、紀勢線の鉄橋が落ちていました。これはただごとじゃないなと。この時はまだニュースにもなってなくて、どういう状況かわからなかったんですね。この先の道を行きますと、もう水が出てて通行止めでした。

台風12号による紀伊半島大水害。9月4日、大きな被害が出ました。この台風で、私の同級生は一家五人が流されて全員亡くなっています。先輩の中学生の息子も流されて亡くなっております。9月4日が来ると思いだすんですね。9月4日は、私の誕生日なんですが、誕生日が来たら毎年ちょっと嫌な気持ちになるというか怖いですね。昔は台風が来たら、「波が出るな」ってわくわくしていたのが、今は台風ができたらちょっと怖いような感じですね。

この会議に参加させて頂いて、いろんなことを学びました。そのなかの一つが、片田先生に教えて頂いたことです。子どもたちは知識のうえでの防災で、「逃げなさいよ」って教えても実際にはなかなか行動しないと。実際に行動するのはやっぱり指導者、教えている先生が熱意を持って、「お前たちの命を絶対守るんだ」、「死なせないんだ」という熱意が大事なんだと。これが私のモチベーションになっているのかなと思います。

ここから本題に入ります。これからの防災教育の進め方なんですけども、第1回は釜石へ、第2回は田辺市、第3回は黒潮町へ、といろんなことを学ばせて頂きました。私の心に残る実践はいっぱいありました。

和歌山県の教育の基本的方向の 1 番、『子どもの自立を育む学校教育の推進』。この中にまだ細かい項目があって、その中の5番目に『防災・安全教育の充実、安全・安心な教育環境の実現』となっていますが、他にも課題は多いです。今学校現場は、やらなきゃいけないことがもう山積しています。学力アップであったり、いじめ・不登校をどうにかしなき



防災教育による人間教育

和歌山県教育の基本的方向
1. 子どもの自立を育む学校教育の推進
2. 地域の活力を育む人づくり
3. 生きがいをもち、
自己実現をめざせる社会づくり
4. 誰もが主体的に参画できる社会づくり
5. 人権尊重社会の実現

1. 子供の自立を育む学校教育の推進
① 確かな学力の向上
② いじめ・不登校への対応
③ 道徳教育の推進
④ 健やかな体の育成
⑤ 防災・安全教育の充実、
安全・安心な教育環境の実現
⑥ キャリア教育・職業教育と就職支援の充実
⑦ ふるさと教育の推進
⑧ 特別支援教育の充実
⑨ 幼児期の教育の充実
⑩ 国際化に対応した教育の推進
⑪ 教員の実践的指導力の向上
⑫ その他の施策

ゃといけないと。やらなきゃいけないこといっぱいあるんですよ。今日参加して頂いている先生方は、立場が皆違うと思います。私のように一教諭のような立場もあろうし、校長先生、学校トップの先生もいるだろうし、指導主事の先生だとか大学の先生だとか、立場が違うと思うんです。そこで、一教諭が防災担当になったからといって、「こういうことをやりましょう」と言っても、なかなか学校動かないです。「また新しいこと始めるの。そうじゃなくてもやらなきゃいけないこといっぱいあるのに、また大変なことするの。」っていう感じなんですね。それをどうするのか。

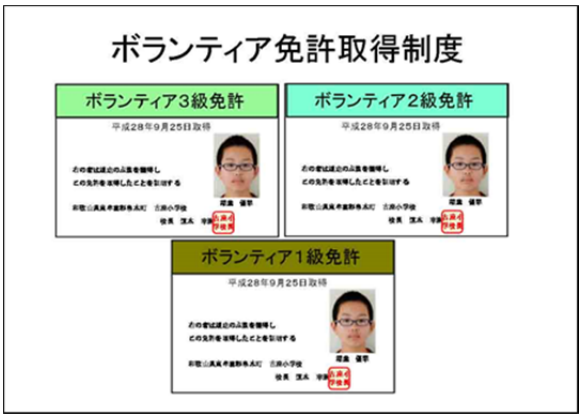
今私が勤務している古座小学校の子どもたちの様子です。例えば学校の行事の中には、直接防災には結びつかないようなことかもしれませんけど、いろんな行事を今までもやっています。この行事もたくさんあるんです。例えば、警察の方に来てもらっての交通安全教室。地域の方を呼んで、運動会の踊りを教えてもらう。子どもたちが地域の演芸会で教えてもらった踊りを踊りにいく。あと消防の人に来てもらって、高学年が心肺蘇生法をやったり避難訓練やったり。七夕集会で笹に飾り付けしたものを地域の河内祭りという有名な祭りで船に飾って使ってもらったりする。いろんな行事があるので、さらに新たに防災教育で何かやろうっていうのは、なかなか受け入れられません。

そこで私が考えた方法は、防災教育ではないですけども、これらを全部ひとまとめにして、子どもたちの自主性・安全性を育てることにひっくるめてやってしまおうということなんです。これだったらそんなに抵抗なくいけます。といっても、去年４月に勤務校が変わりまして、まだ何もスタートできてない状態です。しかし、これはもう絶対これからやりたいなと思っています、まずは高学年から。

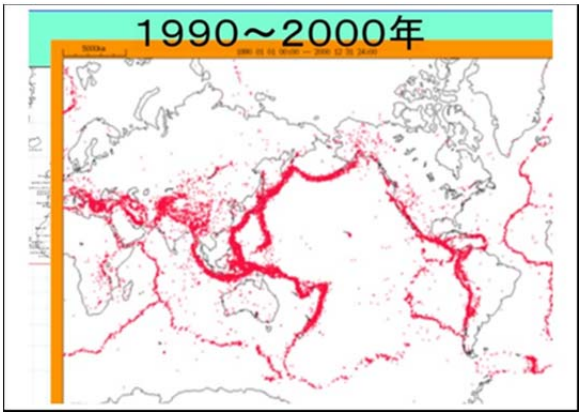
それでどうやるか。例えば、釜石東中学校の実践を参考にさせて頂いたものですけども、ボランティア免許取得制度。学校の行事もそうだし、地域の行事、お祭りだとか地域のクリーン作戦だとかボランティア活動とか、こういったいろいろなイベントに参加したら、ポイントがもらえる。地域の活動の場

① 消防署の方を招いての心肺蘇生法
② 応急手当講習
③ 警察の方を招いての交通安全教室
④ 地域の方を招いての地震・津波学習
⑤ 地域の祭りへの協力・参加
⑥ 水泳記録会
⑦ 着衣水泳体験
⑧ 地域のクリーン作戦
⑨ 持久走大会
⑩ 地域の民舞
⑪ 防災マップ作り
⑫ 幼稚園への訪問交流
⑬ 老人ホームへの慰問

合は自主的にそれを申告することで何ポイント。心肺蘇生法を受けたら何ポイント。着衣泳の講習を受けに行ったら何ポイント。これをずっと加算していって、4 年生だったら、どれだけ取ったらボランティア免許３級がもらえるよとか。もうちょっと頑張ったら２級、１級。卒業するまでには１級の免許が取れるよと。釜石東中学校の実践を参考にしたものですが、こういう免許証をもらえるというのは、中学校でやるより小学生の方が絶対食いつくと思うんですね。だからこのような形で、これから防災教育を進めていきたいなと思っています。また「こういうやり方があるよ」というご意見があれば、聞かせて頂きたいなと思います。



最初に戻りますけども、『地域を好きになる教育』。私が防災教育をやりだした時は、「津波・地震・洪水、そういうことから逃げなきゃいけない」という教育だったんですけども、「それは駄目だ、そればっかりやっていたら、結局地域を嫌いになる」と片田先生に教えて頂いたんですね。それで、今は授業の最後にこのような話をしています。授業を受けているような感じで、気楽にご覧ください。



「今からこの世界地図の中に、1990 年から 2000 年の間に地震が起こったところには赤い点がぽつっと出てきます。」

これを見ると、子どもたちは「わあ」って言います。

「日本は真っ赤になっています。日本は地震が多い。日本の国土の面積は地球上の 0.25% しかないけども、地震が起こるのは 22.9%。世界で起こる大きな地震の 5 つのうちの 1 つは、日本で起こってるんです。だから、外国から日本は地震大国だって呼ばれてます。」

子どもたちは、「ええ、いやだ」っていう感じです。

「フランスの首都パリです。パリは人類の歴史が始まって以来、一度も地震が起こっていません。」

と言ったら、子どもたちは「ええ、何で」って感じになります。

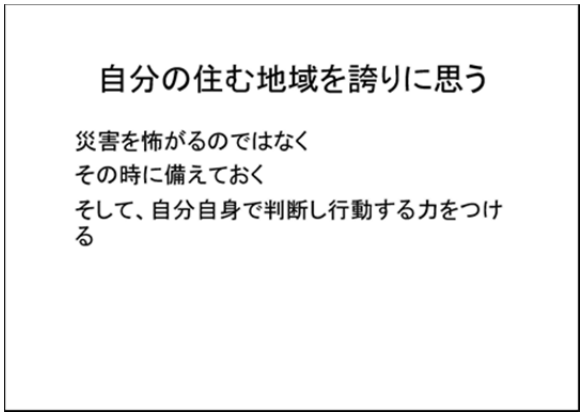
「日本は周りが海で囲まれている。そして、日本の地層は、沖積層という柔らかい地層でできている。海で囲まれているから地震がおきたら沿岸部は津波で襲われます。柔らかい沖積層でできているから、地震があって揺れたら被害が大きくなる。」

「でもそれよく考えてみたら、そんな悪いことばっかりじゃない。周りを海で囲まれているが故に、

みんなはたくさんの海の幸を手に入れることができる。そして地層が柔らかい。地層が弱いっていうことは、それだけいろんなところで豊かな実りを手に入れることができる。地球上の多くの都市が土地をほったらかしにしたら、そこは大体砂漠になっていく。ところが、日本は土地をほったらかしにしたら、そこに草が生え木が茂り、やがてそこは森林になる。だから、日本はどこへ行っても豊かな自然が広がって、とっても綺麗なところが多いんだよ。」

「では、みんなが住んでいる、串本を見てごらん。周りに海があって、美味しい魚がいつでも食べられて、海水浴ができて、海で遊べる。凄いものをみんなは知らないうちに貰ってるんだ。豊かな自然がここにあるんだ。」

「みんなが生きているうちに、地震とか津波は来るかもしれないけど、そんなのは人生の中で一回くらい。その一回をちゃんと自分の判断で逃げて生き延びれば、あとはこの豊かな自然をずっともらい続けることができるんだよ。」

私が子どもの頃、地図を見ていて、千葉にも勝浦というところがあることを知ったんです。それを親父に聞いたら、「勝浦の人間っていうのは昔からおおらかで、人に何でも分かち与える。昔、漁師さんたちが勝浦の漁法をいろんなところに教えてあげたんだ。普通だったら自分たちの技術は隠しておくところだけども、それを隠さないで勝浦の人たちはオープンにいろんなところに教えてあげたんだ」と。調べてみると、明治以前の漁法の多くは、私の住む紀南の地から出ているそうです。それを子どもの頃に聞いた私は、心に根が張って、自分のアイデンティティーの確立といいますか、「勝浦は素晴らしいところなんだ」と誇りに思うようになった。常日頃はそんなこと考えていませんけど、これは私にとって大きな教育だったと思うんですね。だから、これから進めていくうえで、「私は授業でこういうことをやっている」という提案させて頂きました。

私の話は以上です。ありがとうございました。